

令和3年度定型的業務の負担軽減に向けたソフトウェア保守業務委託仕様書

1 委託業務名

令和3年度定型的業務の負担軽減に向けたRPA保守業務委託

2 業務の目的

令和3年度定型的業務の負担軽減に向けたソフトウェア保守業務委託(以下「本業務」という。)は、RPA(Robotic Process Automation)を活用し、本県における庁内の定型的業務の負担軽減を図るため、ソフトウェアライセンスの調達及び保守対応を行うことを目的とする。

3 履行期間及び履行場所

(1) 履行期間

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(2) 履行場所

広島県庁農林庁舎4階及び本県が指定する場所

4 業務内容

【年間スケジュール案】

業務内容	4～5月	6月	7月	8月	9月	10～11月	12～3月
(1) ソフトウェアの調達	・本番環境 (UiPath - Attended - Named User) ・開発環境 (UiPath - RPA Developer - Named User)						
(2) 保守対応	・保守対応						
(3) 共通	概算見積						年度切替作業

(1) ソフトウェアの調達

調達する製品は、次のとおり UiPath 株式会社の RPA 製品とすること。

受託者は、本県が用意した端末へインストール作業を行うこととし、当該ソフトウェアのライセンス料は委託料に含めるものとする。

区分		数量	調達期間
本番環境	UiPath - Attended - Named User	10	令和3年4月1日から 令和4年3月31日まで
開発環境	UiPath - RPA Developer - Named User	7	

(2) 保守対応

① 保守対応の範囲

ア 本契約における保守対応（問合せ対応等を含む。）の範囲は、次の表に掲げる令和2年度までにリリース済みの業務（以下「各業務」という。）とする。

業務NO	業務名	業務概要	主な関連アプリケーション	主な所属	主な作業場所
H30-01	・物品要求受付業務	財務会計システムから物品要求発注決裁書等データを取り出し・印刷，要求状況エクセルを更新。	財務会計システム 他	総務事務課	県庁南館
H30-02	・会計年度任用職員の支払事務1 ・会計年度任用職員の支払事務2（1の複製）	報酬賃金データについて，財務会計システムに入力し，支出調書を作成・起案・印刷。	財務会計システム 他	総務事務課（共通業務担当）	三栄ビル（広島市中区中町7-41）
H30-03	・時間外勤務実績の集計（課別）	総務事務システムから課別の時間外実績データを取り出し，月次集計用エクセルに転記。	総務事務システム 他	商工労働総務課	県庁東館
H30-04	・時間外勤務実績の集計（局別）	総務事務システムから局別時間外実績データを取り出し，日別データを作成。翌月に月別集計表エクセルに転記。	総務事務システム 他	人事課・教育委員会総務課	県庁農林庁舎
R1-01	・出勤簿等印刷業務1 ・出勤簿等印刷業務2（1の複製） ・児童手当台帳出力業務	手当の認定や給与計算のため，各種システムから対象者の出勤簿等データを取り出し・印刷。	総務事務システム 他	総務事務課（共通業務担当）	三栄ビル（広島市中区中町7-41）
R1-02	・科目等更正業務 ・科目単位更正業務 ・支出調書印刷業務	科目更正データについて，財務会計システムに入力し，支出調書を作成・起案・印刷。	財務会計システム 他	総務事務課（共通業務担当）	県庁農林庁舎
R1-03	・人事履歴取り出し業務_Jpeg ・人事履歴取り出し業務_PDF ・帳票印刷	履歴確認等のため，人事システムから人事履歴等データを取り出し・印刷。	人事給与・福利厚生システム	教職員課（職員給与室）	県庁東館
R1-04	・年末調整検証データ作成業務	給与システムで生成されたデータを所定フォルダから取り出し，検証用データ等を作成。	FFFTP	教職員課（職員給与室）	県庁東館

イ 原則、本県の業務手順の変更・仕様変更によるものは除くこととし、ロボットが正常に動作しない場合を対象とするが、保守対応の範囲については、本業務の委託料の範囲内において、本県と受託者で調整する。

ウ 各業務ロボットそのものに変更を行っていない複製ロボットについては保守対象とすること。なお、設定ファイル（Config ファイル）のみの変更はロボットそのものに変更を加えたとはみなさない。

② 保守対応方針

ア 受託者は、前記（1）で調達したソフトウェアを用いて、保守対応を行うこと。

イ 保守対応は、原則現地対応とする。ただし、簡易な問合せ対応や、現地対応を実施する前の原因調査により現地対応が不要となった場合には、この限りではない。

ウ 受託者は、本県の保守対応の求めに応じて速やかに駆けつけることが可能な実施体制（担当者名簿）を整備すること。

エ 本県が受託者に対して、正常に動作しない旨の報告をした日の翌日から3開庁日以内に、ロボットの改修及び正常に動作することの確認を行うこと。ただし、3開庁日以内により難しい場合は、本県と受託者とが協議して定めるものとする。

オ 年間工数は21人日程度を目安とし（問合せ対応や原因調査により、現地対応を行わずに解決した場合もこの工数を含む。）、受託後、予定を超過する可能性が生じた場合は、別途、本県と受託者で調整する。

カ 本県は、契約締結後に、各業務の詳細設計書（別紙 詳細設計書見本を参照）を受託者に提供する。受託者は各業務の詳細設計書に基づき保守対応を行うこと。また、保守対応によって設計に変更が生じた場合には、詳細設計書を更新すること。

キ 本県職員が、受託者に代わり簡易な修正・変更等を行う場合は、技術的な支援を行うこと。

ク 年度切替時（年度：4月1日、暦年：1月1日）において、正常に動作するよう技術的な支援を行うこと。

③ その他

保守対応依頼は、原則エンドユーザー（業務担当課）が行い、各業務に共通的な内容については、管理部門（業務プロセス改革課）を通じて行うことを想定している。

受託者は、本業務の契約後10日以内に、次の事項等を整理し、本県の承認を得ること。

ア 保守対応に係る管理部門（業務プロセス改革課）とエンドユーザー（業務担当課）の役割分担のあり方

イ 役割分担を踏まえた保守対応の事務フロー（問合せ・連絡調整方法、現地対応等の流れ）

ウ 新型コロナウイルス感染（疑い）者発生時等における保守対応の考え方

エ 保守対応におけるナレッジの共有方法

（3）共通

ア 本仕様書に記載する全項目について適切に管理するため、責任者を定めること。

イ 本業務に係る会議等の内容は議事録として記録し、速やかに本県へ報告すること。

ウ 既存ベンダーと連携・調整が必要となる場合、本県の承認を得た上で、相互に協調を保ち、作業の便宜と進捗を図ること。また、打合せ等を行った場合、その内容は議事録として記録

し、速やかに本県へ報告すること。

エ 令和4年度（2022年度）に向けた概算費用の見積を作成し、本県へ提示すること。

5 動作環境

本業務では、既設の県庁LAN端末を利用するものとする。

県庁LAN端末の標準仕様（令和3年2月1日現在）は、下表のとおり。

区分	仕様 (Lenovo ThinkPad 端末)	仕様 (DELL 端末)
OS	Windows10 professional(バージョン1909) 64bit	
CPU	Intel(R)Core(TM)i5-7300U @2.60GHz	Intel(R)Core(TM)i5-8250/CPU @1.60GHz 1.80GHz
メモリ	4GB	8GB
ハードディスク	120GB	
画面解像度	1920×1080	
Webブラウザ	Microsoft Internet Explorer 11 又は 11 エンタープライズモード	
関連アプリケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft Office Professional Plus 2013 ・Adobe Acrobat Reader ・庁内グループウェア ・財務会計システム ・人事給与・福利厚生システム ・Joruri Mail (Webメール) ・総務事務システム ・FFFTP <p style="text-align: right;">他</p>	

6 業務の完了（成果物及び履行確認）

成果物は、プログラム言語等の特殊なものを除き、日本語を使用して作成することとし、ドキュメント類については、電子媒体又は紙媒体で提供すること。

区分	成果物（任意様式）	提出（納品）時期	履行確認の方法
(1) ソフトウェアの調達	・ソフトウェアライセンス	令和3年4月1日	受託者が本県のために取得したソフトウェアに係るライセンスキー等の通知によって確認する。
(2) 保守対応	・保守実施体制（担当者名簿）	契約後速やかに	受託者は、保守体制（担当者名簿）について報告し、本県はその内容を確認する。
	・保守対応依頼に係る整理事項	契約後10日以内	受託者は、4(2)③の事項について整理し、本県の承認を得ること。
	・月次報告書（保守対応報告）	業務実績月の翌月15日まで（令和4年3月分については3月31日まで）	受託者は、保守対応状況について、月次報告書により報告し、本県は、報告の受領日から5開庁日以内にその内容を確認する。
	（修正等があった場合） ・ロボットファイル （修正等があった場合） ・詳細設計書	保守対応実施日の翌開庁日まで 本県と受託者で調整する。	受託者は、成果物を納品し、本県はその内容を確認する。 受託者は、成果物を納品し、本県はその内容を確認し、承認する。
(3) 共通	・次年度概算見積	本県と受託者で調整する。	受託者は、概算見積を本県に提示し、本県はその内容を確認する。
	・会議・ヒアリング等の議事録	会議日から起算して7日以内	受託者は、議事録を本県に提示し、本県はその内容を確認し、承認する。

7 留意事項

- (1) 受託者は、本県と連絡調整を十分に行い、円滑に業務を実施すること。
- (2) 受託者は、業務実施過程で疑義が生じた場合、速やかに本県に報告し協議を行い、その指示を受けること。
- (3) 受託者は、約款第13条に規定する再委託に係る承諾を得るときは、再委託の相手方、業務の範囲、理由及び再委託予定金額を明記して申請すること。
- (4) 受託者は、委託業務上発生した障害や事故については、大小に関わらず本県に報告し指示を仰ぐとともに、早急に対応を行うこと。

8 その他

この仕様書に定めのない事項またはこの仕様書について疑義が生じた事項については、本県と受託者とが協議して定めるものとする。

別紙

詳細設計書見本

広島県RPA

●●局・●●●●課

「●●●●業務」詳細設計書（見本）

Version ●

●年●月●日

変更履歴

日付	バージョン	変更箇所	変更内容	名前	承認者
●年●月●日	0.1	新規作成	・詳細設計書を作成		

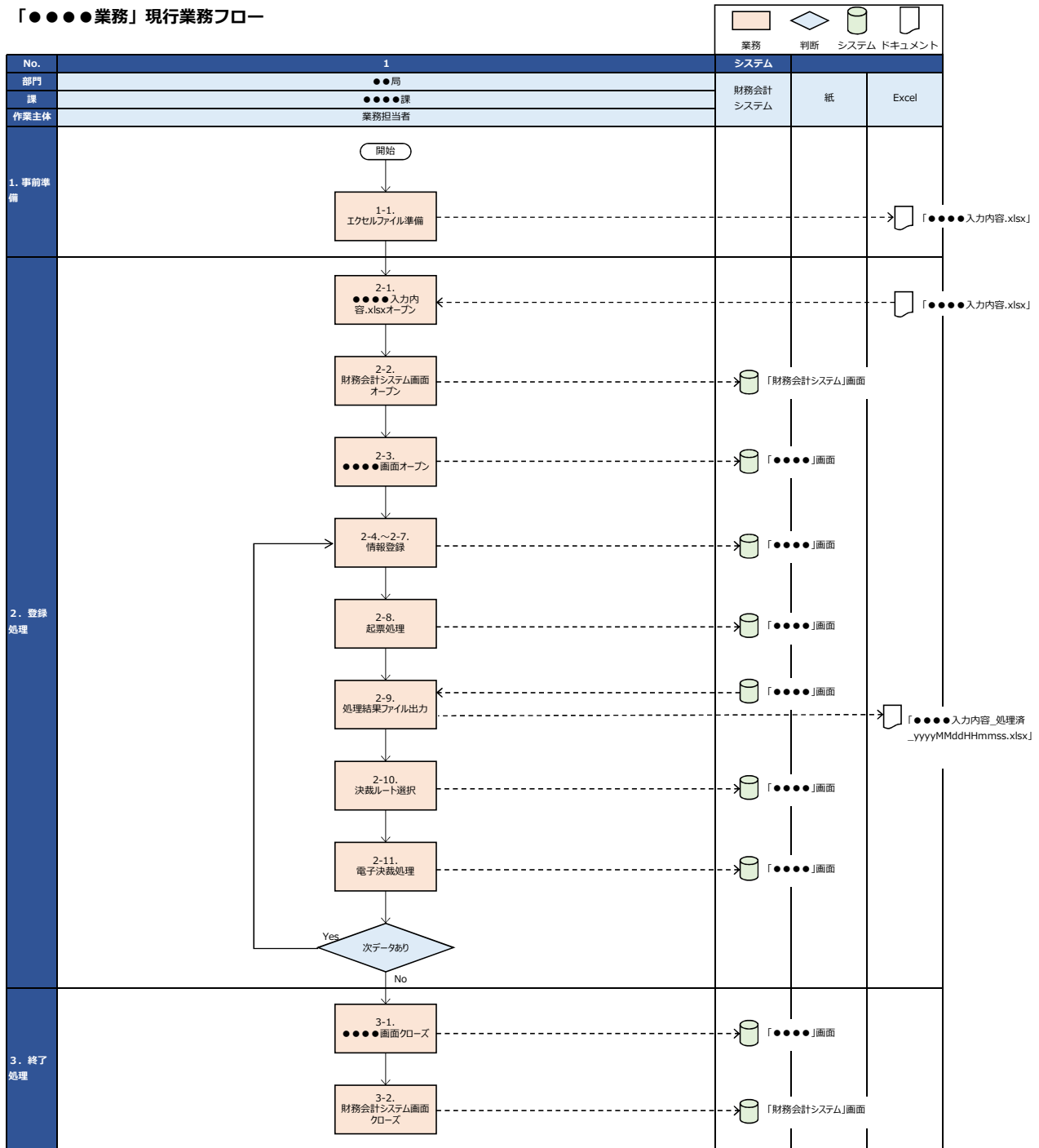
業務概要

作業概要	Excelに記載した入力情報により、財務会計システムの「●●●●」メニューから入力、起票及び決裁開始処理を行う。			
作業者	●●●●課担当者			
前提条件／制限事項	特になし			
入出力	No	名称	形式	I/O
	1	●●●●入力内容	Excel	I
	2	●●●●入力内容_処理済_yyyyMMddHHmmss	Excel	O
	3	会計年度変換表	Excel	I
	4	運用時間設定	Excel	I
	5	終了指示	Text	I
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
20				
使用するシステム	・財務会計システム			
特記事項	・元号の変更タイミングで会計年度変換表を変更する。			

フォルダ構成

No.	名称	タイプ	I/O	備考	凡例
1	UiPathフォルダ	フォルダ	既存		既存：フォルダ I：インプットファイル O：アウトプットファイル
2	●●●●課	フォルダ	既存		
3	●●●●入力業務	フォルダ	既存		
4	Config	フォルダ	既存		
5	●●●●業務_Config.xlsx	ファイル	I		
6	Master	フォルダ	既存		
7	入力完了	フォルダ	既存		
8	●●●●入力内容_処理済_yyyyMMddHHmmss.xlsx	ファイル	O		
9	会計年度変換表.xlsx	ファイル	I		
10	●●●●入力内容_ひな形.xlsx	ファイル	I	本ファイルはコピーして使用	
11	●●●●入力内容.xlsx	ファイル	I		
12	運用時間設定.xlsx	ファイル	I		
13	Robowork	フォルダ	既存		
14	スクリーンショット	フォルダ	既存		
15	yyyyMMddHHmmss.png	ファイル	O	エラー発生時のスクリーンショット	
16	Xaml	フォルダ	既存		
17	Main	フォルダ	既存	本フォルダにロボットファイルが格納	
18	ロボットスタートバッチ.bat	ファイル	I		
19	UiPathLogCopy.bat	ファイル	I		
20	終了指示.txt	ファイル	I	「Master」フォルダ直下に格納することでロボット終了	

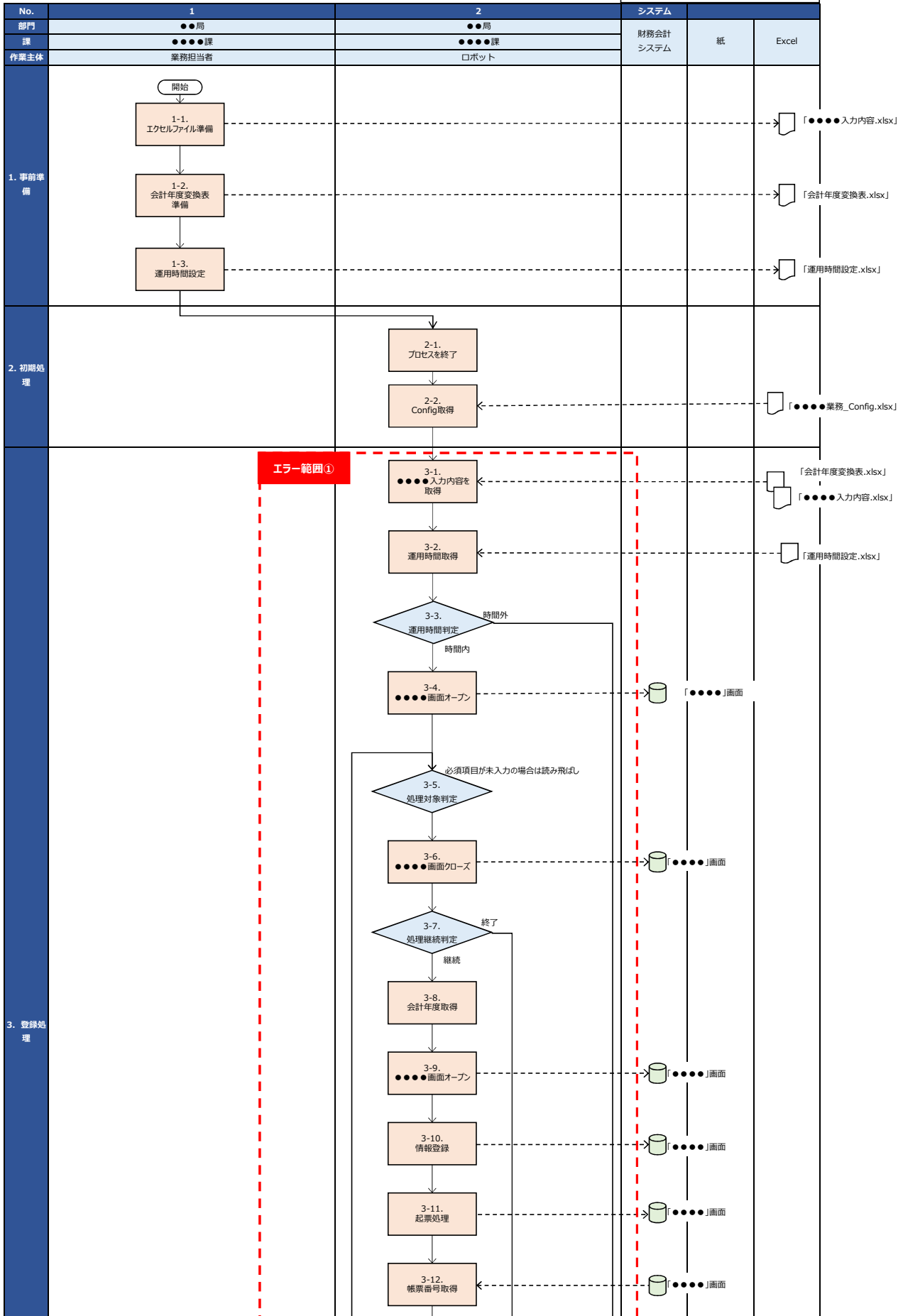
「●●●●業務」現行業務フロー



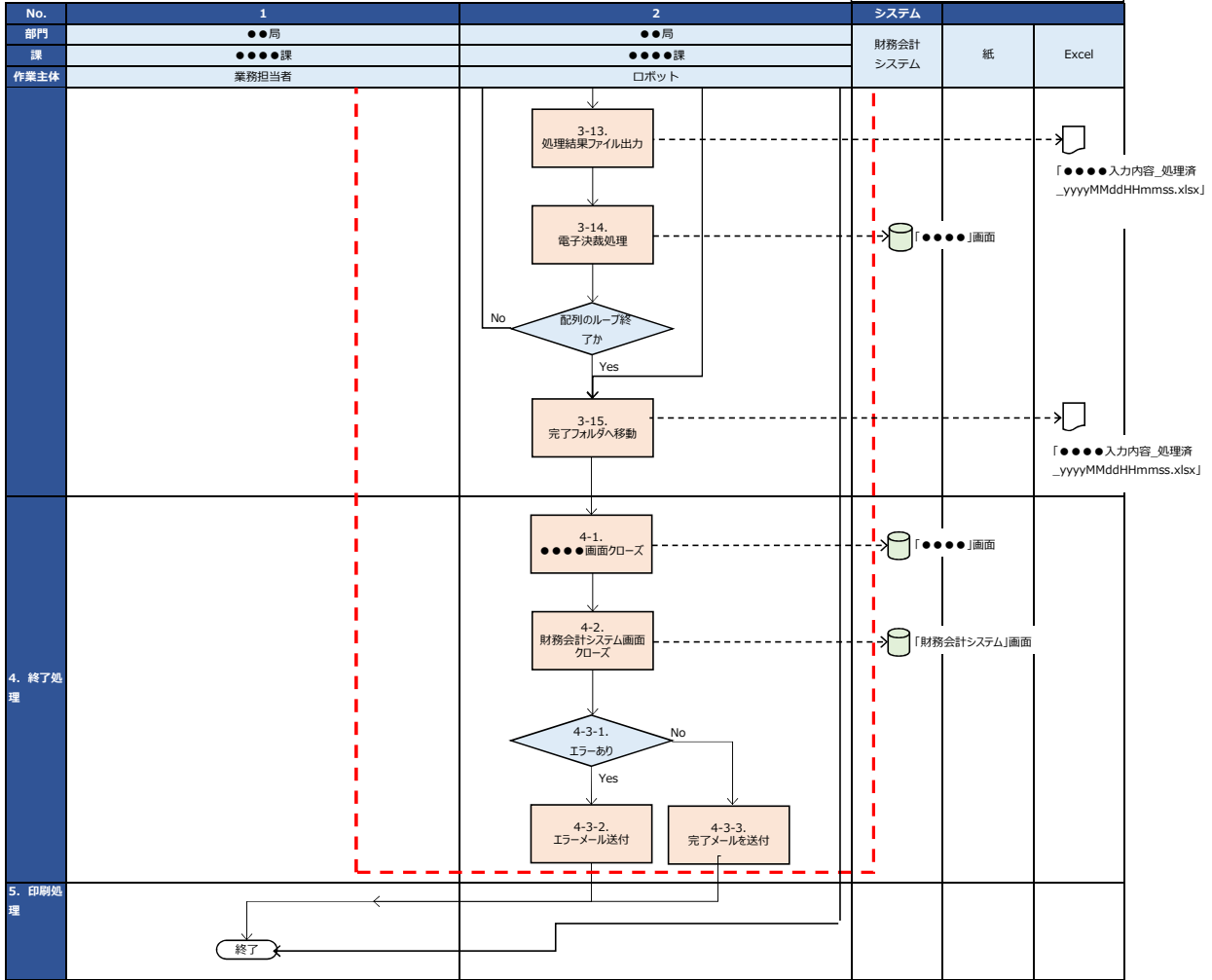
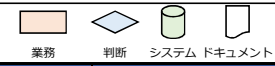
「●●●●業務」現行業務詳細

カテゴリ	タスク	タスクの詳細	作業主体	備考
1. 事前準備	1-1. エクセルファイル準備	財務会計システムに入力を行いたい情報を「●●●●入力内容.xlsx」に記載する。	業務担当者	
	2-1. ●●●●入力内容.xlsxオープン	Excelを開く。	業務担当者	
	2-2. 財務会計システム画面オープン	「財務会計・電子決裁」をクリックし、「財務会計システム」画面を開く。	業務担当者	
	2-3. ●●●●画面オープン	「歳出管理」-「●●●●」-「●●●●」の順にメニューを選択し、「●●●●」画面を開く。	業務担当者	
	2-4. 情報登録（基本）	「基本」タブに「●●●●入力内容.xlsx」から値を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> 「年度」：元号と年度をそれぞれ設定する 「支出負担行為整理日」：デフォルト値 「支出負担行為番号」：調書番号上9桁を設定する（数値変換後、12桁でゼロパディングした後、上9桁を設定） 「件名」：デフォルト値 「内容」：デフォルト値 「理由」：理由（全角変換後、先頭30文字）を設定する 「備考」：デフォルト値 「任意コード」：任意コード1（半角変換後）、任意コード2（半角変換後）をそれぞれ設定する 	業務担当者	
	2-5. 更正情報登録（更正額）	「更正額」タブに「●●●●入力内容.xlsx」から値を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> 「更正額」：更正額を設定する 	業務担当者	
	2-6. 更正情報登録（更正前）	「更正前」タブに「●●●●入力内容.xlsx」から値を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> 「内訳番号」：内訳番号 「所属」：デフォルト値 「予算主務課」：更正前主務課（数値変換後、2桁でゼロパディング）を設定 「繰越区分」：空白以外の場合設定（空白の場合は「現年」） 「目コード」：更正前目コード（数値変換後、4桁でゼロパディング）を設定 「事業」：更正前事業（数値変換後、5桁でゼロパディング）を設定 「節・細節」：更正前節、更正前細節を設定する 	業務担当者	
	2-7. 更正情報登録（更正後）	「更正後」タブに「●●●●入力内容.xlsx」から値を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> 「年度」：デフォルト値 「所属」：デフォルト値 「予算主務課」：更正後主務課（数値変換後、2桁でゼロパディング）を設定 「繰越区分」：空白以外の場合設定（空白の場合は「現年」） 「目コード」：更正後目コード（数値変換後、4桁でゼロパディング）を設定 「事業」：更正後事業（数値変換後、5桁でゼロパディング）を設定 「節・細節」：更正後節、更正後細節を設定する 	業務担当者	
	2-8. 起票処理	「実行」ボタンをクリックし、「実行してよろしいですか？」メッセージで「OK」ボタンをクリックして起票する。	業務担当者	
	2-9. 処理結果ファイル出力	結果を「●●●●入力内容_処理済_yyyyMMdHHmss.xlsx」に出力する。 <ul style="list-style-type: none"> エラーの場合 「エラー」：取得したメッセージを出力 正常の場合 「起票」："起票しました。"を出力 「帳票番号」：メッセージより帳票番号を取得して出力 	業務担当者	エラーの場合はエラーメッセージ取得後、次データの処理を行う。
	2-10. 決裁ルート選択	「電子決裁入力画面に進んでよろしいですか？」メッセージで「はい」ボタンをクリックする。 「電子+紙決裁」ボタンをクリックし、「ルート設定」-「定型ルート利用」をクリックする。 「ルート名」に設定ファイルより取得したルート名を設定後「確定する」ボタンをクリックする。 「確定する」ボタンをクリックして決裁ルートを確定する。 定型ルートが存在しない場合、エラーメールを送信し、処理を終了する。	業務担当者	
2-11. 電子決裁処理	「起票する」ボタンをクリック後、「確定する」ボタンをクリックする。 「起票OK」メッセージで「OK」をクリックする。 <ul style="list-style-type: none"> エラーの場合 「エラー」：取得したメッセージを出力 正常の場合 「決裁」："決裁開始しました。"を出力 	業務担当者		
3. 終了処理	3-1. ●●●●画面クローズ	「閉じる」ボタンをクリックして「●●●●」画面を閉じる。	業務担当者	
	3-2. 財務会計システム画面クローズ	「閉じる」ボタンをクリックして「財務会計システム」画面を閉じる。	業務担当者	

「●●●●業務」新業務フロー



「●●●●業務」新業務フロー



「●●●●業務」新業務詳細

カテゴリ	No.	タスク	No.	ループ No.	ループ No.	タスクの詳細	処理後のルート	備考	
1. 事前準備	1	Excelファイル準備	1			財務会計システムに入力を行いたい情報を「●●●●入力内容.xlsx」に記載する。			
	2	会計年度変換表準備	1			会計年度変換表を作成・確認する。			
	3	運用時間設定	1			運用時間設定.xlsxにシステム停止時間帯を避けて記載する。 (8:00~20:00の範囲とする)		①範囲外の時間は入力できないようにExcel側で入力規則で設定する ②以下のとおりExcel側で入力チェックを行い、エラーの場合はC3セルにエラーメッセージを表示 <チェック内容> ・開始時間が空白 ・終了時間が空白 ・開始と終了の時間が逆転している ・開始と終了の時間が同じ	
2. 初期処理	1	プロセスを終了	1			IE, Excel, PDFを閉じる			
	2	Config取得	1			Configファイルのファイルパス取得		「ConfigFilePath.txt」を読み込み アウトプットは「ConfigPath」へ格納	
			2			Configファイルの読み込み			
1	●●●●入力内容取得		1			●●●●入力内容.xlsxを読み込み		パス: Z:\UIPath\●●●●業務\Master\●●●●入力内容.xlsx シート: 入力内容 アウトプットは「SubjectsCorrection」へ格納	
			2			会計年度変換表を読み込み		パス: Z:\UIPath\●●●●業務\Master\会計年度変換表.xlsx シート: 会計年度変換表 アウトプットは「ConversionTableMaster」へ格納	
			1			運用時間を読み込み		パス: Z:\UIPath\●●●●業務\Master\運用時間設定.xlsx シート: 運用時間設定 セル: "A2:B3" アウトプットは「OperationTime」へ格納	
			2			開始時間を取得		「StartTime」\Cdate(now.ToString("yyyy/MM/dd") + Cdate(OperationTime.Rows(0).Item("開始"))).ToString("HH:mm"))を代入	
			3			終了時間を取得		「EndTime」\Cdate(now.ToString("yyyy/MM/dd") + Cdate(OperationTime.Rows(0).Item("終了"))).ToString("HH:mm"))を代入	
			4			【条件分岐】終了時間に"00:00"が指定されたか	指定: 3-2-5 指定されていない: 3-2-6	「Cdate(OperationTime.Rows(0).Item("終了")).ToString("HH:mm") = "00:00"」が True の場合 「Cdate(OperationTime.Rows(0).Item("終了")).ToString("HH:mm") = "00:00"」が False の場合	
			5			終了時間に今日より1日を追加		「EndTime」\Cdate(now.AddDays(1).ToString("yyyy/MM/dd") + Cdate(OperationTime.Rows(0).Item("終了"))).ToString("HH:mm"))を代入	
			6			【条件分岐】現在時刻は運用時間内か	時間内: 3-2-7 時間外: 3-2-8	「(StartTime < now()) and (now() < EndTime)」が True の場合 「(StartTime < now()) and (now() < EndTime)」が False の場合	
			7			運用時間判定結果に「True」を代入	処理後2-9	「out_Result」\Trueを代入	
			8			運用時間判定結果に「False」を代入		「out_Result」\Falseを代入	
			9			エラーメッセージ読み込み		パス: Z:\UIPath\●●●●業務\Master\運用時間設定.xlsx シート: 運用時間設定 セル: "C3" アウトプットは「ErrorMessage」へ格納	
2	運用時間取得		10			【条件分岐】エラーメッセージはありか	あり: 3-2-11 なし: 3-3-1	「ErrorMessage<>"」が True の場合 「ErrorMessage<>"」が False の場合	
			11			エラーメッセージを出力		エラーメッセージは下記4パターン ・運用時間設定が不正です。開始時刻と終了時間が逆転しています。 ・運用時間設定が不正です。開始と終了におおきく時間が設定されています。 ・運用時間設定が不正です。開始時刻が設定されていません。 ・運用時間設定が不正です。終了時刻が設定されていません。	
			1			【条件分岐】運用時間内か	時間内: 3-4-1 時間外: 3-4-2	「OperationTimeResult」が True の場合 「OperationTimeResult」が False の場合	
			2			エロメール送信	処理後, 実行完了	詳細は「メール送付ロジック」参照	
			1			【条件分岐】保守環境での稼働か	保守: 3-4-2 本番: 3-4-8	「in_Config」\「ExecutionEnvironment」 = "保守環境"」が True の場合 「in_Config」\「ExecutionEnvironment」 = "保守環境"」が False の場合	
			2			保守環境でブラウザを開く		URL: http://dd-dcn14mwasv11.h-pref-dp2.pref.hiroshima.lg.jp/gprime/pwidentify.htm	
			3			3秒待機		ブラウザへの接続のための待ち時間	
			4			保守ブラウザにアクセス			
			5			ユーザーIDを入力		ユーザーIDは「in_Config」\「LoginID」	
			6			ユーザーパスワードを入力		ユーザーパスワードは「in_Config」\「LoginPW」	
			7			「ログイン」を押す	処理後3-4-12		
4	●●●●画面オープン		8			「ログイン」をキャンセル		URL: http://	
			9			「ログイン」を最大化			
			10			「ログイン」が開くまで待機		最大30秒まで待機	
			11			「財務会計」電子決裁を押す			
			12			財務会計システムが起動するまで待機		最大30秒まで待機	
			13			財務会計システムにアクセス			
			1			「メニュー」抽出管理メニューを開く		3回(回数: 3 3回の間隔: 00:00:02)	
			2			「抽出管理」を押す			
			3			抽出管理メニューの要素の有無を確認		最大3秒まで待機	
			4			「メニュー」抽出管理メニューを開く	条件満たす: 3-4-15 条件満たさない: 3-4-14-2		
			15			「●●●●」を押す			
			16			論理エラー有無フラグ初期化		「LogicErrorUmFlg」\Falseを代入	
		5	処理対象判定		1		「メニュー」入力情報登録		代入先は「rowSubjectsCorrection」
					2		【条件分岐】処理対象か	対象: 3-7-1-1 対象外: 3-6-1-3	「(intRow > 0) and (rowSubjectsCorrection.Item("ロボット使用欄 (更正対象)").ToString() = "○")」が True の場合 「(intRow > 0) and (rowSubjectsCorrection.Item("ロボット使用欄 (更正対象)").ToString() = "○")」が False の場合
					3		次の行を処理	処理後3-6-1-2	
		6	●●●●画面のロース		1		●●●●画面の有無を確認		アウトプットは「SubjectsCorrectionFlg」へ格納
	2				【条件分岐】●●●●画面が開いているか	開いている: 3-7-1-3 開いていない: 3-7-1-8	「SubjectsCorrectionFlg」が True の場合 「SubjectsCorrectionFlg」が False の場合		
	3				●●●●画面にアクセス				
	4				「閉じる」を押す				
	5				ウェブメッセージの有無を確認		アウトプットは「ExitMessageFlg」へ格納		
	6				【条件分岐】ウェブメッセージは表示されたか	表示: 3-7-1-7 表示されていない: 3-7-1-8	「ExitMessageFlg」が True の場合 「ExitMessageFlg」が False の場合		
	7				「OK」を押す				
	8				PrintResult内容の初期化		「PrintResult」\Falseを代入		
7	処理継続判定		1		運用時間を読み込み		パス: Z:\UIPath\●●●●業務\Master\運用時間設定.xlsx シート: 運用時間設定 セル: "A2:B3" アウトプットは「OperationTime」へ格納		
			2		開始時間を取得		「StartTime」\Cdate(now.ToString("yyyy/MM/dd") + Cdate(OperationTime.Rows(0).Item("開始"))).ToString("HH:mm"))を代入		
			3		終了時間を取得		「EndTime」\Cdate(now.ToString("yyyy/MM/dd") + Cdate(OperationTime.Rows(0).Item("終了"))).ToString("HH:mm"))を代入		
			4		【条件分岐】終了時間に"00:00"が指定されたか	指定: 3-8-1-5 指定されていない: 3-8-1-6	「Cdate(OperationTime.Rows(0).Item("終了")).ToString("HH:mm") = "00:00"」が True の場合 「Cdate(OperationTime.Rows(0).Item("終了")).ToString("HH:mm") = "00:00"」が False の場合		
			5		終了時間に今日より1日を追加		「EndTime」\Cdate(now.AddDays(1).ToString("yyyy/MM/dd") + Cdate(OperationTime.Rows(0).Item("終了"))).ToString("HH:mm"))を代入		
			6		【条件分岐】現在時刻は運用時間内か	時間内: 3-8-1-7 時間外: 3-8-1-8	「(StartTime < now()) and (now() < EndTime)」が True の場合 「(StartTime < now()) and (now() < EndTime)」が False の場合		
			7		運用時間判定結果に「True」を代入	処理後3-8-1-9	「out_Result」\Trueを代入		
			8		運用時間判定結果に「False」を代入		「out_Result」\Falseを代入		
			9				パス: Z:\UIPath\●●●●業務\Master\運用時間設定.xlsx シート: 運用時間設定 セル: "C3" アウトプットは「ErrorMessage」へ格納		
			10			【条件分岐】エラーメッセージはありか	あり: 3-2-11 なし: 3-2-12	「ErrorMessage<>"」が True の場合 「ErrorMessage<>"」が False の場合	

カテゴリ	No.	タスク	No.	ループ No.	ループ No.	タスクの詳細	処理後のルート	備考	
3. ●●●●登録処理	8	会計年度を取得	1	11		エラーメッセージを出力		エラーメッセージは下記4パターン ・運用時間設定が不正です。開始時間と終了時間が逆転しています。 ・運用時間設定が不正です。開始と終了がおなじ時刻が設定されています。 ・運用時間設定が不正です。開始時間が設定されていません。 ・運用時間設定が不正です。終了時刻が設定されていません。 パス：Z:\UIPath\●●●●業務VMaster\終了指示.txt	
				12		「終了指示.txt」の有無を確認			
				13		「条件分岐」処理終了か		終了：3-8-1-14へ 継続：3-9-1-1へ	{(OperationTimeResult = False) or (EndFileFlg = True)}がTrueの場合 {(OperationTimeResult = False) or (EndFileFlg = True)}がFalseの場合
				14		ループを終了		処理後3-16-1へ	
				1		西暦が異なる行を削除		インポート：「ConversionTableMaster」 絞り込み条件：「0列目 != Cint(rowSubjectsCorrection.Item("年度"), ToString)」を削除 アウトポート：「ConversionTable」	
				2		元号を取得		{EraName}へ「Mid(ConversionTable.Rows(0).Item("年度 (和暦)"), ToString, 1, 2)」を代入	
				3		年度を取得		{Nendo}へ「Cint(Mid(ConversionTable.Rows(0).Item("年度 (和暦)"), ToString, 3, 2))」を代入	
				1		歳出管理メインメニューをアクティブにする			
				2		歳出管理メインメニューにアタッチ			
				1		【ループスタート】●●●●画面を開く エンド条件：●●●●画面の検出あるいは3回ループを超えた		小トライ回数：3 小トライの間隔：00:00:05	
				2		【●●●●】を押下			
				3		●●●●画面の要素の有無を確認			
4		【ループエンド】●●●●画面を開く エンド条件：●●●●画面の検出あるいは3回ループを超えた		条件を満たす：3-10-1-4へ 条件を満たさない：3-10-1-3-2へ					
4		●●●●画面が表示されるまで待機		最大30秒まで待機					
1		●●●●画面にアタッチ							
2		元号入力		インポート：「EraName」					
3		年度入力		インポート：「Nendo, ToString」					
4		支出金相行為番号入力		インポート：「Mid(CInt(rowSubjectsCorrection.Item("調書番号")), ToString("D12"), 1, 9)」					
5		「戻し」を押下							
6		2秒待機							
7		エラーメッセージの有無を確認		読み込みが完了するまでの待機時間 アウトポートは「LogicErrorFlg」へ格納					
8		【エラー条件】エラーメッセージありか		あり：3-11-1-9へ なし：3-11-1-17へ	{LogicErrorFlg}がTrueの場合 {LogicErrorFlg}がFalseの場合				
9		エラーメッセージを取得		アウトポートは「LogicErrorMessage」へ格納					
10		「閉じる」を押下							
11		エラーメッセージから改行を削除		{Out_LogicErrorMessage}へ「LogicErrorMessage.Replace("\n", "")」を代入					
12		ファイルを開く		パス：Z:\UIPath\●●●●業務VMaster\●●●●入力内容.xlsx シート：入力内容					
13		「エラー」をヘッダーとして持つ列を特定		アウトポートは「EditCell」へ格納					
14		エラーメッセージを書き込み		セル：「EditCell.Replace("1", "") + (intRow+2), ToString」 メッセージ：「ErrorContents」					
15		論理エラー有無フラグを「True」へ変更		{LogicErrorUmuFlg}へTrueを代入					
16		次の行を処理へ		処理後3-6-1-2へ					
17		更正理由入力		インポート：「StrConv(rowSubjectsCorrection.Item("入力更正理由"), ToString, vbWide, 1041)」 インポート：「StrConv(rowSubjectsCorrection.Item("任意コード1"), ToString, vbNarrow, 1041)」 ※半角での入力が必要					
18		任意コード1入力		インポート：「StrConv(rowSubjectsCorrection.Item("任意コード2"), ToString, vbNarrow, 1041)」 ※半角での入力が必要					
19		任意コード2入力							
20		「更正」タブを押下							
21		更正額入力		インポート：「rowSubjectsCorrection.Item("更正額"), ToString」					
22		「内訳番号」を押下							
23		「条件分岐」更正後主務課「欄」に値なしか		なし：3-11-1-25へ あり：3-11-1-24へ	{rowSubjectsCorrection}("更正後主務課"), ToString = ""}がTrueの場合 {rowSubjectsCorrection}("更正後主務課"), ToString = ""}がFalseの場合				
24		更正後主務課入力		インポート：「Cint(rowSubjectsCorrection.Item("更正後主務課"), ToString("D2"))」 ※2桁でゼロパディング					
25		「条件分岐」更正後繰越区分「欄」に値なしか		なし：3-11-1-26へ あり：3-11-1-27へ	{rowSubjectsCorrection.Item("更正後繰越区分"), ToString = ""}がTrueの場合 {rowSubjectsCorrection.Item("更正後繰越区分"), ToString = ""}がFalseの場合				
26		繰越区分として「現年」を選択							
27		繰越区分として指定された区分を選択		区分：「rowSubjectsCorrection.Item("更正後繰越区分"), ToString」					
28		更正後目コード入力		インポート：「Cint(rowSubjectsCorrection.Item("更正後目コード"), ToString("D4"))」 ※4桁でゼロパディング					
29		更正後事業入力		インポート：「Cint(rowSubjectsCorrection.Item("更正後事業"), ToString("D5"))」 ※5桁でゼロパディング					
30		更正後節入力		インポート：「Cint(rowSubjectsCorrection.Item("更正後節"), ToString("D2"))」 ※2桁でゼロパディング					
31		「条件分岐」更正後細部「欄」に値なしか		なし：3-11-1-33Aへ あり：3-11-1-32へ	{rowSubjectsCorrection.Item("更正後細部"), ToString = ""}がTrueの場合 {rowSubjectsCorrection.Item("更正後細部"), ToString = ""}がFalseの場合				
32		更正後細部入力		インポート：「Cint(rowSubjectsCorrection.Item("更正後細部"), ToString("D2"))」					
33		「実行」を押下							
34		2秒待機							
35		エラーメッセージの有無を確認		更正情報の読み込みまでの待機時間 アウトポートは「LogicErrorFlg」へ格納					
36		【エラー条件】エラーメッセージありか		あり：3-11-1-36へ なし：3-12-1-1へ	{LogicErrorFlg}がTrueの場合 {LogicErrorFlg}がFalseの場合				
37		エラーメッセージを取得		アウトポートは「LogicErrorMessage」へ格納					
38		「閉じる」を押下							
39		エラーメッセージから改行を削除		{Out_LogicErrorMessage}へ「LogicErrorMessage.Replace("\n", "")」を代入					
40		ファイルを開く		パス：Z:\UIPath\●●●●業務VMaster\●●●●入力内容.xlsx シート：入力内容					
41		「エラー」をヘッダーとして持つ列を特定		アウトポートは「EditCell」へ格納					
42		エラーメッセージを書き込み		セル：「EditCell.Replace("1", "") + (intRow+2), ToString」 メッセージ：「ErrorContents」					
43		論理エラー有無フラグを「True」へ変更		{LogicErrorUmuFlg}へTrueを代入					
44		次の行を処理へ		処理後3-6-1-2へ					
1		実行確認メッセージが表示されるまで待機		最大30秒まで待機					
2		「はい」を押下							
3		ファイルを開く		パス：Z:\UIPath\●●●●業務VMaster\●●●●入力内容.xlsx シート：入力内容					
4		「起票」をヘッダーとして持つ列を特定		アウトポートは「EditCell」へ格納					
5		起票しました。に書き込み		セル：「EditCell.Replace("1", "") + (intRow+2), ToString」					
1		起票完了メッセージが表示されるまで待機		最大30秒まで待機					
2		帳票番号を取得		アウトポートは「DraftNumber」へ格納					
3		「OK」を押下							
4		{DraftNumber}から「帳票番号」を削除		{DraftNumber}へ「DraftNumber.Replace("帳票番号", "")」を代入					
5		{DraftNumber}から「起票しました。」を削除		{DraftNumber}へ「DraftNumber.Replace("起票しました.", "")」を代入					
6		ファイルを開く		パス：Z:\UIPath\●●●●業務VMaster\●●●●入力内容.xlsx シート：入力内容					
7		「帳票番号 (結果)」をヘッダーとして持つ列を特定		アウトポートは「EditCell」へ格納					
8		帳票番号を書き込み		セル：「EditCell.Replace("1", "") + (intRow+2), ToString」 インポート：「DraftNumber」					
1		ファイルを開く		パス：「PrintFileName」					
2		ファイルを読み込み		アウトポートは「PrintFile」へ格納 セル：「"A" + (PrintFile.Rows.Count+1), ToString」 値：「EraName」					
3		年号を書き込み		セル：「"B" + (PrintFile.Rows.Count+1), ToString」 値：「Nendo, ToString」					
4		年度を書き込み		セル：「"C" + (PrintFile.Rows.Count+1), ToString」 値：「DraftNumber」					
5		帳票番号を書き込み		セル：「"D" + (PrintFile.Rows.Count+1), ToString」 値：「●●●●」					
6		帳票種別を書き込み		セル：「"E" + (PrintFile.Rows.Count+1), ToString」 値：「rowSubjectsCorrection.Item("入力更正理由"), ToString」					
7		件名を書き込み		最大30秒まで待機					
1		電子決裁確認メッセージが表示されるまで待機		最大30秒まで待機					
2		「はい」を押下							
3		決裁結果に「False」を代入		{out_Result}へFalseを代入					
4		待機時間を設定		{WaitTime}へ「in_DraftWaitTime + 60000」を代入 ※Configで指定された待機時間を30秒に変換 {WaitTime}で指定された秒数まで待機					
5		起票 (常票起票) ダイアログが表示されるまで待機							
6		「電子決裁」を押下							
7		「ルート設定」を押下							
8		電子決済システムのルート設定画面が表示されるまで待機		最大30秒まで待機					
9		「ルート設定」を押下							
10		共通電子決済システムダイアログが表示されるまで待機		最大30秒まで待機					
11		ルート名を選択		ルート名はin_FixedRouteName					
12		「確定する」を押下							

カテゴリ	No.	タスク	No.	ループ No.	ループ No.	タスクの詳細	処理後のルート	備考			
14	電子決裁		13			2秒待機		定型ルート選択でシステム動作が遅くなることもあるため			
			14			「ルート設定」が表示されるまで待機		最大30秒まで待機			
			15			「確定する」を押下					
			16			2秒待機				定型ルート選択でシステム動作が遅くなることもあるため	
			17			起案（発議起案）タイアログが表示されるまで待機				最大30秒まで待機	
			18			「起案する」を押下					
			19			「メール通知先選択」が表示されるまで待機				最大30秒まで待機	
			20			「確定する」を押下					
			21			「[NCTR00001]決裁開始しました」が表示されるまで待機				最大30秒まで待機	
			22			「[NCTR00001]決裁開始しました」をテキストとして取得				アウトプットは「out_ResultMessage」へ格納	
			23			「out_ResultMessage」から「[NCTR00001]」を削除				「out_ResultMessage」へ「out_ResultMessage.Replace("[NCTR00001]" "")」を代入	
			24			決裁結果に「True」を代入				「out_Result」へ「True」を代入	
			25			「OK」を押下					
			26			ファイルを開く				パス：Z:\UIPath\共通\●●●●●業務\Master\●●●●●入力内容.xlsx	
			27			「決裁」をヘッダーとして持つ列を特定				シート：入力内容	
			28			決裁結果を書き込み				アウトプットは「EdgeCell」へ格納 セル：「EditCell.Replace("1","") + (intRow+2).ToString」 インプット：「DraftMessage」	
			29			「ループエンド」情報を登録 エンド条件：配列「SubjectsCorrection」をすべて処理				条件満たす：3-16-1へ 条件満たさない：3-6-1-2へ	
			15	完了後フォルダへ移動		1			ファイル名を変更		「FileName」へ 「in_Config("SubjectsCorrectionDonePath").Replace("yyyyMMddHHmmss",Now(),.ToString("yyyyMMddHHmmss"))」を代入
						2			ファイルを完了フォルダへ移動(PowerShell を呼び出し)		インプット：「Move-Item " + in_Config("SubjectsCorrectionPath") + " " + FileName」
			4. 終了処理	1	●●●●画面の フロー	1			●●●●画面の有無を確認		アウトプットは「SubjectsCorrectionFlag」へ格納
						2			【条件分岐】●●●●画面が開いているか	開いている：4-1-3へ	「SubjectsCorrectionFlag」が True の場合
						3			●●●●画面にアタッチ	開いていない：4-2-1へ	「SubjectsCorrectionFlag」が False の場合
						4			「閉じる」を押下		
						5			ウェブページの有無を確認		アウトプットは「ExitMessageFlag」へ格納
						6			【条件分岐】ウェブメッセージは表示されているか	表示されている：4-1-7へ	「ExitMessageFlag」が True の場合
						7			「OK」を押下	表示されていない：4-2-1へ	「ExitMessageFlag」が False の場合
						8					
						9					
						10					
11						●●●●画面が閉じるまで待機		最大30秒まで待機			
12						財務会計システムにアタッチ					
13						「閉じる」を押下					
14						ウェブページの有無を確認		アウトプットは「ExitMessageFlag」へ格納			
15				【条件分岐】ウェブメッセージは表示されているか	表示されている：4-2-6へ	「ExitMessageFlag」が True の場合					
16				「OK」を押下	表示されていない：4-2-7へ	「ExitMessageFlag」が False の場合					
17											
18				「案内ポータル」が表示されているか確認		アウトプットは「PortalFlag」へ格納					
19				【条件分岐】案内ポータルは開いているか	開いている：4-2-9へ	「PortalFlag」が True の場合					
20				案内ポータルにアタッチ	開いていない：4-3-1へ	「PortalFlag」が False の場合					
21				「Alt」+「F4」を押下		案内ポータルを閉じる					
22											
23				【条件分岐】論理エラーなしか	なし：4-3-3へ	「LogicErrorUmuFlag」が False の場合					
24					あり：4-3-2へ	「LogicErrorUmuFlag」が True の場合					
25				エラーメール送付		詳細は「メール送付ロジック」シート参照					
26				完了メール送付		詳細は「メール送付ロジック」シート参照					

「●●●●●業務」メール送付ロジック詳細

タスク	No.	ループ No.	タスクの詳細	処理後のルート	備考
1. メール作成画面を開く	1		庁内ポータルが表示されているか確認		アウトプットは「PortalMailFlg」へ格納
	2		【条件分岐】庁内ポータルは開いているか	開いている：1-6へ 開いていない：1-3へ	「PortalMailFlg」が「True」の場合 「PortalMailFlg」が「False」の場合
	3		庁内ポータルを開く		URL：http://
	4		ウィンドウを最大化		
	5		グループウェアが開くまで待機		最大30秒まで待機
	6		「メール」を押下		
	7		庁内メールシステムが開くまで待機		最大30秒まで待機
	8		「メールの作成」を押下		
	9		メール作成画面が開くまで待機		最大30秒まで待機
2. メール作成	1		メール作成画面にアタッチ		
	2		Toを入力		インプット：「in_Config(in_MailType + "_To")」
	3		【条件分岐】Ccが指定されているか	指定されている：2-4へ 指定されていない：2-6へ	「in_Config(in_MailType + "_Cc") <> ""」が「True」の場合 「in_Config(in_MailType + "_Cc") <> ""」が「False」の場合
	4		「Ccを追加」を押下		
	5		Ccを入力		インプット：「in_Config(in_MailType + "_Cc")」
	6		【条件分岐】Bccが指定されているか	指定されている：2-7へ 指定されていない：2-9へ	「in_Config(in_MailType + "_Bcc") <> ""」が「True」の場合 「in_Config(in_MailType + "_Bcc") <> ""」が「False」の場合
	7		「Bccを追加」を押下		
	8		Bccを入力		インプット：「in_Config(in_MailType + "_Bcc")」
	9		件名を入力		インプット：「in_Config(in_MailType + "_Subject")」
	10		【条件分岐】添付ファイルはありますか	あり：2-11へ なし：2-14へ	「in_AttachmentFlg」が「True」の場合 「in_AttachmentFlg」が「False」の場合
	11		「ファイル選択」を押下		
	12		「アップロードするファイルの選択」欄が表示されるまで待機		最大30秒まで待機
	13		添付ファイルのパスを入力		インプット：「in_AttachmentPath+ "[k(enter)]"」
	14		本文を取得		「Body」へ「in_Config(in_MailType + "_Body")」を代入
	15		改行コードを「lf」から「CRLF」へ置換		「Body」へ「Body.Replace(vbLf, vbCRLF)」を代入
16		【条件分岐】置換用文字列は存在するか	存在：2-17へ 存在しない：2-18へ	「in_ReplacePath <> ""」が「True」の場合 「in_ReplacePath <> ""」が「False」の場合	
17		置換用文字列を結果ファイルのパスで置換		「Body」へ「Body.Replace(in_Config("ReplacementText_" + in_MailType), in_ReplacePath)」を代入	
18		本文を入力		インプット：「Body+ "[k(enter)]"」	
19		「送信する」を押下			
3. メール作成画面を閉じる	1		メール作成画面の有無を確認		アウトプットは「AddWindowFlg」へ格納
	2	1	【ループスタート】メール作成画面を閉じる エンド条件：メール作成画面の要素が非表示		
		2	「閉じる」を押下		
		3	メール作成画面の有無を確認		アウトプットは「AddWindowFlg」へ格納
		4	【ループエンド】メール作成画面を閉じる エンド条件：メール作成画面の要素が非表示	条件満たす：3-3へ 条件満たさない：3-2-2へ	
	3		庁内メールシステムにアタッチ		
4		「Alt」+「F4」を押下			
5		「タブをすべて閉じる」が表示されるまで待機		最大30秒まで待機	
6		「タブをすべて閉じる」を押下			

エラーハンドリング詳細

No	エラー範囲名	NO	エラーハンドリング詳細	処理後のルート	備考
1	エラー範囲①	1	スクリーンショット撮影		アウトプットは「Screenshot」へ格納
		2	スクリーンショット保存先を設定		「ScreenShotPath」へ「Config("ScreenShotPath").ToString + "¥" + now().ToString("yyyyMMdd_HHmms") + ".png"」を代入
		3	スクリーンショットを保存		「ScreenShot」を「ScreenShotPath」へ保存
		4	IE, Excel, PDFを閉じる		
		5	システムエラーメール送信		詳細は「メール送付ロジック」シート参照

「●●●●業務」エラーメール（エラー発生時）

[運用時間外エラー時(Error)]

To	
Cc	
件名	【●●●●業務】エラー発生（運用時間外）
本文	関係者の皆さん 【●●●●業務】について、運用時間外のため処理を終了しました。

[論理エラー時(Warning)]

To	
Cc	
件名	【●●●●業務】エラー発生（論理エラー）
本文	関係者の皆さん 【●●●●業務】について、エラーが発生した件名がありますので、手動での対応をお願いいたします。 処理失敗の件名は添付ファイルの通りです。 【処理失敗】 D:¥xxxxxxx¥●●●●入力内容.xlsx

[上記以外エラー時(Error)]

To	
Cc	
件名	【●●●●業務】エラー発生
本文	関係者の皆さん ●●●●業務について、エラーが発生しました。 手動で実行可能な状態か確認をお願いいたします。

「●●●●業務」完了メール（正常終了）

To	
Cc	
件名	【●●●●業務】作業が正常に完了しました
本文	<p>関係者の皆さん</p> <p>【●●●●業務】の作業が正常に終了しましたので、 ご報告いたします。</p> <p>添付要</p> <p>【処理完了】 D:¥xxxxxxx¥●●●●入力内容_処理済_yyyyMMddHHmmss.xlsx</p>